

診療の現状

2009年度は従来の泌尿器診療に加え腎不全医療を中心に診療を展開してきた。

1. 泌尿器科部門

泌尿器科部門はこれまで同様に排尿障害、尿路結石、泌尿器癌、尿路感染症が治療の中心であり、可能な限り急患に対応すべく努力してきた。

特に前立腺癌治療については済生会熊本病院との連携を強化し、PSA値やMRI所見から前立腺癌が疑われるケースでは当院にて前立腺生検およびステージ診断を行い、病理結果や画像診断の結果で前立腺全摘術や放射線治療（トモセラピー）などの先進的医療が必要な場合は迅速に熊本病院へ紹介した。治療後は当院にて定期的にフォローをすることで前立腺癌治療ネットワークを確立することが出来た。

2. 腎不全部門

腎不全領域では、2007年よりスタートした腎不全外来も年々増加傾向がみられており2007年で月平均10.5人、2008年で21.0人、2009年で35.8人と増加がみられた。中でも前年4月より本格的に上天草地区におけるCKD地域連携パスの運用を開始したことにより行政の協力のもとで上天草地区における透析導入抑制に貢献できつつある。

3. 検査・手術件数

検査件数の総数は88件であり、その大半は膀胱鏡検査で73件であった。

その他の内訳はシャント造影6件、膀胱内圧測定7件、膀胱尿道造影2件であった。手術件数については麻酔科常勤医師が不在となった影響で総数77件と前年度より大きく減少した。件数の内訳では経尿道的手術が26例（TUR-Bt 10例、TUR-P 2例、尿管鏡・カテーテル操作12例、TUL・膀胱碎石などの結石治療2例）であった（グラフ参照）。

前立腺生検は22例であり、先進的治療が必要なケースはすべて熊本病院へ紹介した。シャント関連手術については内シャント作成術5例、シャントPTA 9例と前年度よりやや増加がみられた。

